

異文化意識発達の5つの過程

異文化意識開発®プロフィール(DPIC)は、Milton Bennettの異文化感受性発達モデルをもとに、山本志都が実証研究により開発した理論に基づく測定ツールです。

発達
の
推進力

初対面

シンパシー

ご対面

異対面

エンパシー

メタ認知

異対面とは、発達の重要なターニングポイント。そもそも相手が「何を見ているか」、「何として見ているか」が、システムレベルから異なることに気づく出会い。

フェーズ1
違いへの

無関心

フェーズ2
違いに対する

防衛

フェーズ3
違いを

最小化

フェーズ4
違いを

相対化

フェーズ5
違いとの

共創

違いについて考える発想がなく意識外になっている。または興味がなく何とも思わない状態。

違いを認識するようになるが、自分の中で整理しきれず、違和感や抵抗感を覚えている状態。自己防衛のために対象を否定し、攻撃、排除に至ることもある。

違いを特別視せず、なじませて調和させる中で、自分にわかる範囲の違いを許容して、ある程度尊重する寛容性がある状態。ただしこの理解は限定的。想定外の出来事では許容範囲を超え、違いを踏まえた対応が難しくなる。

複数の視点を移動しながら、多面的に比較検討する中で、自分になかった異なる文脈での発想や感覚を理解し、考慮できるようになる状態。異なる選択肢や可能性に対して柔軟な対応が可能になる。

選択に意識的になり、出現させたい未来にコミットする中で、発信力で周囲に影響を与え、探索力で他者からの影響を受け取り、この相互作用を通じて、相互適応と共進化を実現する状態。

違いを単純化した受け止め方・関わり方

違いの複雑性をとらえた受け止め方・関わり方

出典の書き方はこちら↓

山本志都 (2025) 「異文化意識発達の5つの過程」 Differentness & Diversity, <https://www.diffanddiv.com/> (20XX年X月X日アクセス)